

教頭会会報

宮崎県公立小中学校教頭会

第146号 2024

令和6年2月26日発行



〈 表 紙 〉

【写真左上】南那珂支会「道の駅きたごう」

道の駅きたごうは県内19番目の道の駅として昨年10月にオープンしたばかりです。飴肥杉の香りあふれる館内には、北郷町や日南市の特産品、名産品、海山の幸を扱う直売所やレストラン、ピザのテイクアウト店、総菜や弁当、焼酎等のコーナーがあります。また、館外には子供も大人も楽しめる「インクルーシブ遊具」を設置した広々とした広場もあります。北郷ICから5分とアクセスもよく、家族で来られても十分に楽しめることと思います。ぜひ、道の駅きたごう、日南市へお越しください。

【写真左下】都城支会「都城盆地」

都城盆地は、宮崎県都城市を中心とした南北約40キロメートル東西約15キロメートルの楕円形領域に広がる盆地です。そこに位置する都城市では、肉加工品や乳製品、焼酎、竹弓や木刀などの伝統的工芸品など幅広い産業があります。三股町は、霧島山系からの清らかな水が利用され、高品質な米や野菜、果物などの農産物が生産されています。各地区ごとに、様々な顔の霧島山が見られることも、都城盆地ならではのようです。

【写真右】西諸県支会「新田場の田の神」(小林市東方)

田の神は、この地域では親しみを込めて「たのかんさあ」と呼ばれています。西諸県地区の田の神は、江戸時代から現代まで数多く造られ、それぞれ顔・形が違います。写真の「新田場の田の神」は、年代がはっきりしているものでは、県内で最古の田の神像です。西諸県地区だけでも140ほどの田の神が大切に守られています。多くの田の神さあを見て好きな田の神さあを探してみてください。

あ い さ つ

宮崎県公立小中学校教頭会

副会長 黒 木 博

新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。これから年度末を迎えますが、各学校では、児童生徒の健やかな成長を目指して、それぞれの先生方が日々尽力されていることと存じます。

令和5年5月に、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が変わり、インフルエンザと同様の扱いとなりました。各学校においては、コロナ禍において中止や自粛をしていた教育活動を単に復活させるのではなく、その「教育的効果」や「職員の働き方」とリンクさせながら再検討した上で、教育課程を推進しているのではないかと思います。

社会全体においても、制限無しの年末年始は、コロナ前と同じように、街中では多くの人が行き交い、全国の観光地は人で溢れ、以前の活気が戻ってきつつあることを改めて感じました。

そのような新年ムードの中、元日に「能登半島地震」が発生しました。映像で見る現地の様子は、家屋の倒壊、道路の寸断、津波、火災・・・、その壮絶さに衝撃を受けました。ご家族で和やかに迎えられていたであろう元日の夕刻、想像を絶する大災害が待ち受けていました。被災をされた方の心中を思うと、言葉がありません。この災害で亡くなられた方々に哀悼の意を表すとともに、負傷された方のご回復と被災地の日でも早い復興を願うばかりです。

本県においても、数年前から、南海トラフ地震の可能性が叫ばれています。一説によると、今後20年間にマグニチュード8～9の大地震が起こる確率が60%と言われております。各学校でも、東日本大震災以降、避難訓練の内容の見直しなど安全教育の充実を進めていることと思いますが、今回の「能登半島地震」のニュースに接し、児童生徒の「緊急時の判断力・行動力」「助け合う心」などを育てるにはどうすればよいか、学校としての役割が改めて問われてくるように思います。

さて、ご存知のとおり、本年8月に九州地区公立学校教頭会研究大会宮崎大会が宮崎市で開催されます。本年度は、その大会に向けた実行委員会を定期的に実施し、準備を進めております。既に、本大会に関する一次案内を発送させていただいたところではありますが、大会当日はより多くの先生方にご参加いただければ幸いです。本大会に向けて、提言発表、紙上発表をしていただく支会の先生方には特にご苦勞をおかけしますが、発表に向けた準備を引き続きよろしくお願いいたします。県外からお越しいただく先生方にとってはもちろん、県内の先生方にとっても意義深い大会となることを目指しております。今後とも会員の先生方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

最後に、お忙しい中、本会報に寄稿いただいた皆様、編集・発行に携わっていただいた皆様、心から感謝申し上げます。また、県内すべての小中学校の会員の皆様方がご活躍され、皆様にとりましても素晴らしい年となりますよう、ご祈念申し上げます。

結びになりますが、1年間、本会を支えていただきました宮崎県教育委員会、宮崎県市町村教育委員会連合会並びに宮崎県校長会に、心から感謝申し上げます。

支会だより

南那珂支会

1 構成

本支会は、日南市24校（小学校15校、中学校9校）、串間市11校（小学校10校、中学校1校）で構成されている。

2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	川越 賀津雄	日南市立北郷小中学校（小）
副 会 長	水谷 浩文	串間市立有明小学校
理事（日南市副会長）	杉野 茂男	日南市立吾田中学校
理事（日南市副会長）	多田 裕幸	日南市立東郷小中学校（小）
理事（串間市副会長）	武田 久樹	串間市立福島小学校
理事（串間市副会長）	門田 直光	串間市立市木小学校
総 務 部（正）	河野 賢治	日南市立飫肥中学校
会 計（正）	荻山 由貴	日南市立酒谷小学校
研 究 部（正）	矢野 裕二	日南市立吾田小学校
法 制 調 査 部（正）	伊鹿倉 洋樹	日南市立飫肥小学校
広 報 部（正）	岩満 俊彦	日南市立鷯戸小中学校（中）
渉 外 部（正）	岩坂 幸美	日南市立南郷中学校

3 研究の概要

(1) 研究方針

教頭の職務に関する研修の充実を通して、南那珂地区教頭の資質の向上を図り、各学校における児童・生徒の豊かな人間性と創造性を育み、未来を切り拓く学校教育の推進に資する。

(2) 研究内容

- 「未来を切り開く力を育む 魅力ある学校づくり」を研究主題とし、「自立・協働・創造」をキーワードにして研究を深める。
- 教頭の職務に関する研修の充実を通して、南那珂地区教頭の資質の向上を図る。

(3) 本年度の研究課題

地区		研究課題	備考
日南市 *中学校と串間市 中学校は合同	小学校A	教育環境整備に関する課題	県HP
	小学校B	教育課程に関する課題	課題について準備
	中学校	教育課程に関する課題	県HP
串間市 *中学校と日南市 中学校は合同	小学校	教職員の専門性に関する課題	課題について準備
	中学校	教育課程に関する課題	県HP

4 主要行事

月	活 動 内 容
4月	南那珂地区小・中学校教頭会総会（各市ごと）
6月 20日	第1回南那珂学校経営ゼミナール 【講師】日南市立飫肥中学校 北林 克彦 校長
7月 4日	第2回南那珂学校経営ゼミナール 【講師】日南市立吾田中学校 土持 光司 校長
8月3・4日	第65回全国公立学校教頭会研究大会石川大会
8月 17・18日	第63回九州公立学校教頭会研究大会沖縄大会
2月	令和5年度中央研修大会（オンライン）

※ それぞれの市で班別の研究課題解決に向けての協議や資質向上に関する研修を実施した。

支会だより

都城支会

1 構成

都城支会は、66名の教頭により構成されており、その組織は、四役6名、専門部長4名、監査2名の役員を置き、各地区を11地区に分割し、その地区には、地区理事1名を配置している。

2 支会役員

四役

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	若松 宏一	沖 水 小 学 校
副会長 (小学校)	岡田 新一	山 田 小 学 校
副会長 (中学校)	蓮井 伸二	山 之 口 中 学 校
副会長 (三股町)	本田 正治	三 股 中 学 校
総 務 (書 記)	田中 竜男	上 長 飯 小 学 校
会 計	日高 真美	東 小 学 校

専門部

役 職	氏 名	学 校 名
研 究 部 長	日高 茂	安 久 小 学 校
法 制 調 査 部 長	串間 由香里	姫 城 中 学 校
広 報 部 長	上徳 浩太郎	妻 ヶ 丘 中 学 校
厚 生 部 長	伊地知 憲文	西 中 学 校

3 支会の研究目標

全国教頭会と研究目標をひとつにするとともに、日々の教育活動を充実させる学校経営の推進と教頭の在り方を究明する。

4 研究計画

月 日	会の名称	内 容
4月27日 (木)	都城支会教頭会 総会	<ul style="list-style-type: none"> ・役員選出、事業計画、予算案 ・ブロック別協議 ・専門部別協議
6月22日 (木)	第1回全体研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師公園 ・コンプライアンスの取組 ・ブロック別協議
6月～11月	地区別研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別の研究テーマ
11月28日 (火)	第2回全体研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・法制調査部研修 ・研究発表及び協議 ・ブロック別協議
2月20日 (火)	第3回全体研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表及び協議 ・法制調査部による研修 ・専門部会 (反省) ・各地区反省、次年度計画

5 研修内容

- (1) 全国・県教頭会の研修課題を基本とした研修課題について
- (2) 日々の学校経営上の諸問題の対策について
- (3) 教頭の職務内容と役割について

6 班別研修内容

班	担 当	令和 5 年度	令和 6 年度
1	姫城・中郷	4 組織・運営に関する課題 (地区発表①)	1 B 教育課程に関する課題
2	沖水・志和池	3 教育環境整備に関する課題 *HP掲載 (中)	3 教育環境整備に関する課題 *県紙上発表 (中) (地区発表②)
3	庄内・西岳・夏尾	1 B 教育課程に関する課題 *HP掲載 (中) (地区発表①)	3 教育環境整備に関する課題
4	妻ヶ丘・小松原・祝吉	5 A 教職員の専門性に関する課題 *HP掲載 (小)	5 A 教職員の専門性に関する課題 *県紙上発表 (小) (地区発表②)
5	五十市・西	2 子どもの発達に関する課題 (地区発表②)	2 子どもの発達に関する課題
6	三股	1 A 教育課程に関する課題	1 A 教育課程に関する課題 (地区発表①)
7	山之口・高城	1 B 教育課程に関する課題 (地区発表②)	1 B 教育課程に関する課題 *九州提言発表 (中)
8	山田・高崎	5 B 教職員の専門性に関する課題 *HP掲載 (小)	5 B 教職員の専門性に関する課題 * (九州) 県紙上発表 (小) (地区発表①)

7 その他(本年度の外部講師による研修)

<都城支会小中学校教頭会 第1回全体研修会において>

- 日 時 令和5年6月22日(木) 14:20～15:45
- 会 場 都城市中央公民館
- 主な内容
 - ① 講師紹介
 - ② 講 演
 - <講 師> 宮崎中央新聞社代表
編集長 水谷 もりひと 氏
 - <演 題> 「取材の現場から～ 心に残ったいい話」
 - ③ 謝辞



支会だより

西諸県支会

1 構成

本支会は小林市（小学校12校、中学校9校）、高原町（小学校4校、中学校2校）、えびの市（小学校5校、中学校4校）の教頭で構成されている。

2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	長 友 正 明	小 林 市 立 小 林 中 学 校
副 会 長	富 田 兼 三	えびの市立上江小中学校
副 会 長	南 蘭 政 幸	高 原 町 立 狭 野 小 学 校
総 務	津 曲 健	小 林 市 立 小 林 小 学 校
会 計	田 代 見 二	高 原 町 立 高 原 小 学 校
研 究 部 長	三ヶ尻 和 弘	えびの市立岡元小学校
法 制 調 査 部 長	堀 博 文	高 原 町 立 高 原 中 学 校
広 報 部 長	玉 井 教 広	小 林 市 立 永 久 津 中 学 校

3 本年度の活動について

西諸県支会では、小林市教頭会、高原町教頭会、えびの市教頭会ごとに活動を行った。以下、各教頭会の活動を紹介する。

(1) 小林市教頭会

ア 教頭会研修の計画

期 日	開催場所	内 容
5月31日（水）	中央公民館	市教委からの連絡、教育長講話 研修：テーマ「家庭の教育力」、協議、情報交換
6月19日（月）	中央公民館	西諸県地区コンプライアンス研修会
7月13日（木）	中央公民館	市教委からの連絡、教育長講話 研修：テーマ「地域連携のための方策」、協議
9月21日（木）	えびの市文化会館	西諸県地区コンプライアンス研修会
10月 5日（木）	中央公民館	市教委からの連絡、教育長講話 研修：テーマ「教職員が子どもたちにゆとりをもって向き合えるための方策」、協議、情報交換
11月21日（火）	中央公民館	講話：小林市の歴史（小林市史談会） 研修：テーマ「情報モラル、ネットリテラシー、メディアリテラシーに関する教育の充実の方策」、協議
1月24日（水）	中央公民館	【予定】市教委からの連絡・教育長講話 研修：研究のまとめ
2月16日（金）	中央公民館	【予定】市教委からの連絡・教育長講話 研修：次年度の研究について

イ 小林市教頭会の研究主題副題

研究課題 「子どもの発達に関する課題」

研究主題 「児童生徒の主体性を育む小中連携のあり方」

～子どもの学力向上や生活習慣改善に向けた実践への方策を通して～

ウ 研究の概要

- ① 教職員の取組に関する教頭の関わり ② 家庭の取組に関する教頭の関わり

(2) 高原町教頭会

ア 教頭会研修の計画

期 日	開催場所	内 容
4月 5日(水)	高原町中央公民館	町教頭会、教育長講話、研修計画、町PTA関係協議
5月 29日(月)	高原町中央公民館	町教頭会 研究テーマ協議
9月 21日(木)	えびの市文化センター	西諸地区コンプライアンス研修会
11月 2日(木)	高原町中央公民館	町教頭会 学力向上の取組について
1月 23日(火)	高原町中央公民館	1年間のまとめと次年度の方向性について

イ 高原町教頭会活動目標

- (ア) 学校運営上の諸課題等についての研修を深め、教頭としての資質を高めることで学校教育の充実を図る。
- (イ) 町及び学校の教育的課題の解決のための具体的な研修を行う。
- (ウ) 教頭及び学校間の連携を図り、町一貫教育の支援等を行う。
- (エ) 学校統合に向けた関係機関との連絡および調整を円滑に行う。

ウ 町一貫教育における教頭会の役割と内容

(ア) 立場

町一貫教育連携部会、町一貫教育保護者部会における指導・助言及び支援等を行う。

(イ) 内容

- ・町PTA連絡協議会、家庭教育学級と連携したメディアに関する啓発
- ・地域学校協働活動推進のための支援（学校・家庭・地域との連携）

(3) えびの市教頭会

ア 教頭会研修の計画

回	期 日	研 修 内 容	会 場
1	5月16日(火)	教育長講話、研修計画、市教委連絡	市防災食育センター
2	6月19日(月)	西諸地区コンプライアンス研修	小林中央公民館
3	6月22日(木)	市教委連絡、学校運営研究会について	えびの市役所
4	7月 6日(木)	学校運営研究会（教育長講話）	えびの市文化センター
5	9月21日(木)	西諸地区コンプライアンス研修	えびの市文化センター
6	10月12日(木)	市教委連絡、教頭会研究内容について	えびの市役所
7	11月28日(火)	市教委連絡、教頭会研究内容について	えびの市役所
8	1月22日(月)	市教委連絡、教頭会研究内容について	えびの市役所

イ えびの市教頭会の研究主題・副題

研究主題 「学校の組織力向上と働き方改革の推進」

副 題 「各学校の実情に応じた校務の効率化・人材育成の取組を通して」

ウ 研究のねらい

えびの市内の各学校において、校務の効率化や人材育成を通じた組織力向上のあり方について考察する。

各支会新任副校長・教頭 随想

「初心 忘るべからず」

宮崎市立憶北小学校 水 俣 由 美

「未熟な教頭ですが、よろしくお願いたします。」と、至る所であいさつして回った4月。あれから、あっという間に1年が経とうとしている。「残り少ない教職人生・・・学校に恩返しをしたい」「多忙な先生方を支えたい」など、いろんな思いで踏み出した管理職の扉。その扉は、思っていたよりも重かったが、素敵な扉だった。

学校を動かすという責任の重さ、先生方に適切に指導・助言する責務の重さ、保護者の期待の重さなど様々な重さを実感した1年であった。

しかし、それ以上に素敵に感じられたのは、校長先生、教頭先生の支えと、先生方との出会いがあったから。「教頭先生、相談があります。」「教頭先生、報告があります」・・・私のような未熟な教頭でも、一人前の教頭として頼りにしてくれた本校の先生方に育てられた1年間であった。感謝！

元気いっぱい 笑顔いっぱい 優しさいっぱいの憶北小

「一年を終えて」

宮崎市立加納小学校 藤 岡 千 鶴

教頭職に就いて1年が経とうとしている。報・連・相を徹底したいという思いもあって、頻繁に校長室へ足を運んできた。ある日、校長先生との会話の中で、「誰もやらない仕事は教頭の仕事。教頭はそれくらいの覚悟は必要。」とのお言葉があった。まさに「教頭の心得」であると心に刻んだ。

「教頭としてやれることは何か」を問われたら、私は「職員とのコミュニケーション＝風通しの職場づくり」と答える。職員の声に耳を傾け、職員とともに働くことが結果的にはよりよい学校運営につながると思うからだ。一方、これから先の10年を見通した時、私達は誰も経験したことがない新しい教育の時代を迎え、その中で教頭職（管理職）を務めていく。私は、まだ子育て中の身であり、ワークライフバランスを保つことも自分の課題としている。「これまでの教頭像」と「新しい教頭像」をうまく組み合わせながら自分らしく教頭の職を務めていきたいと思う。

心豊かに 思いやりの心をもって活動する 加納っ子

「縁」

宮崎市立広瀬中学校 岩 佐 径 子

宮崎市佐土原町にある広瀬中学校は、農・商・工業と自然が融合し多角的に充実した環境に立地している。また本校の正面玄関前には、明治初期に学校教育の創設に尽力した「島津啓次郎」の像もあり、生徒たちには「ふるさとの偉人」として定着している。そして、純朴かつ素直で明るい生徒たちは、保護者や地域の方々に見守られながら学校行事や部活動に熱心に取り組んでいる。

そんな広瀬中に赴任して間もなく1年が経とうとしている。多忙な中でも、冗談を言い合える職員室、すれ違うたびあいさつを交わす生徒たち、PTA活動とともに知恵を絞り、汗を流す保護者、教育活動への協力を惜しまない地域ボランティア…。「教頭」になり新しい経験と格闘する毎日において、「縁」に感謝しない日はない。不慣れな教頭の私を広い心で受け止めていただき、この地で管理職としての第1歩を踏み出せた縁を今後も大切にしたい。

「賢」「恕」「克」～「夢」に向かって「挑戦」し、周囲に「貢献」する生徒を育む広瀬中

「新任教頭としてのここまで」

宮崎市立加納中学校 奥野英二

新任教頭としてのここまでの経験は、わずかな喜びと挑戦、そして、期待に応えるための多くの苦悩に満ちた日々の連続であった。組織内での円滑なコミュニケーションを図りながら調整を行う、時に決断を迫られる、これまで携わったことのない未知の業務が降り注いでくる、という感覚の日々。理想と現実のギャップは大きく、挫折感を味わうこともあった。そんな時、これまでご指導いただいた多くの管理職の先輩方の姿が臉に浮かんできた。初めて深くその苦労を理解するとともに、改めて尊敬の念を抱きながら自分も頑張らねばと思った。そして、職場では、いつも温かい視線でご指導いただいた校長先生、温かい言葉かけを頂いたり、多忙な中、協力していただいたりした同僚の先生方が支えてくださった。よし、頑張ろう。もっともっと先生方の期待に応えられる教頭を目指して。

加納中学校は創立25周年を迎えます。生徒会スローガン「品格と活気」

「感謝の日々」

串間市立都井小学校 渡邊友恵

「あなたは誰？」という表情をされた1学期。「教頭先生は毎日元気ね？」と尋ねられるようになった2学期。「昨日は遅くまで電気がついていたので、大丈夫？」と心配してもらえるようになった現在。職種も校種も赴任した地域も初めてで、何も知らないことと何もできないことを悟った1年目の毎日。そんな毎日でも元気に過ごすことができたのは、とても信頼のできる心温かい校長先生、優しい言葉をかけ続けてくださっている先生方、そして月に1度、どんな質問にも快く答えてくださる教頭会の先生方、さらに保護者を含めた都井地区の皆様の支えがあったからだと感謝するばかりです。小学校の先生方の日々の生活を間近で見ると、言葉のかけ方や順序立てた分かりやすい説明の仕方など、指導の一つ一つに頭の下がる思いです。一生懸命に働く先生方の力にはなれなかった日々ですが、今後は、都井岬の野生馬を職員室の窓から遠くに眺めながら、先生方のために努力し、児童の成長を確かめながら少しでも将来を見通せるように成長したいと思います。

伊勢海老の入った水槽が皆さんをお出迎えます！
「あいさつ」「あんぜん」「すなおな心」の実現を目指して

「淡々と」「組織的に」教育の「種をまく」

串間市立串間中学校 郡司大円

本年度、開校7年目を迎える県内唯一の連携型一貫校である本校は、生徒数382名、教職員数48名の学校である。豊かな自然等の環境の中で伸び伸びと育つ生徒たちは、屈託のない笑顔で素敵な挨拶ができる等、豊かな人間性に満ちあふれている。そんな素晴らしい生徒達に囲まれスタートした私の教頭職は、これまでの出会いで多くの御示唆をいただいた先輩方の言葉に支えられている。

「淡々と」・・・見通しをもち、一つ一つの業務に実直に向き合い、取り組む。

「組織的に」・・・学校目標の具現化に向け、同僚性を高め効果的な実践を行う。

この2つの言葉を胸に今後の教育活動に取り組み、生徒や同僚に多くの「種」をまける教頭でありたいと考えている。

ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成(自立、自学、自力、そして人間力)

「ニューフロンティア精神を求めて」

川南町立東小学校 久木山 正明

「♪ああ 永遠（とわ）に 永遠に 幸あれ 東校♪」私が勤務する東小校歌の一節です。毎朝、子どもたちの元気な歌声を聞きながら「さあ今日もがんばるぞ」と気合を入れる充実した日々を過ごしています。東小学校は川南町にある全校生徒106名（R5）の学校です。子どもたちは町民から温かく見守られ、のびのびと学習しています。川南町は、全国各地から農業を志す人々が集まり拓かれたことから川南合衆国ともよばれ、「ニューフロンティア精神」が息づく町です。教育にも熱心で川南町ニューフロンティア教育研究会（NF研究会）という町内の教職員で構成する部会があり、町内の先生方が熱心に研究・実践活動を行っています。今年度、本校がNF事務局となり、町教委の先生方や各校の先生方と連絡調整、協議をする貴重な経験をすることができました。「♪我ら学びの道を行く♪」東小校歌にあるように、「ニューフロンティア精神」を心にもち、一つ一つの経験を学びにして少しずつでも教頭として成長できたらと考えています。

永遠に 幸あれ 東校

「処方箋は、感謝」

都農町立都農東小学校 横山 俊博

都農東小学校は、町内の最も北に位置する児童数79名の学校である。また、西に3.5 kmほど離れた所に県内唯一となった児童数7名の内野々分校がある。

教頭として赴任して9ヶ月。年度当初は、目の前の仕事に追われ、その日暮らしの日々であった。最近ようやく学校全体や地域を見渡すことができるようになった気がするものの、今年度も残り3ヶ月。これまでできなかったことばかりが頭をもたげ中、次年度が楽しみになるような計画を立てたい！と、気持ちばかりが前のめりに…。この焦りはいつしかストレスに変わったようである。私の場合、左目下の筋肉がびくびく痙攣したら、必要以上のストレスがかかっている証拠である。つい先日まで痙攣が出現していた。

こんな時は、人生の原点に立ち返る。朝目覚め、職場に行き、仕事を終える。この当たり前のことができたことに感謝し言葉にする。「今日も目が覚めた。ありがとうございます…」いつの間にか痙攣は治まっていた。

笑顔あふれる東っ子

「人として、管理職として」

都城市立五十市小学校 吉永 尊昭

「信頼」私が教諭時代から大切にしている言葉である。大学時代に教員採用選考試験に向けて勉強をする中、自分にとって一番大切なことは何かを考えた末に辿り着いた言葉が「信頼」であった。以来、全ての教育活動は「信頼」の上に成り立つと考え、この言葉を信条にしている。「信頼」を目標に努力しているが、そそっかしい私はミスと反省の繰り返しであり、その大変さを日々実感している。本年度の4月に教頭として本校に赴任した際も管理職としての経験の無さから「申し訳ない。」という思いを抱えての毎日であった。しかし、教頭として職員や児童、保護者、地域の方々と関わり、その笑顔に励まされながら、管理職として不慣れでも、まず、人として大切なことをしっかりと実践し、信頼される教頭を目指していこうと思えるようになった。今後も多くのことを学んでいかなければならない未熟者である。人として、管理職として、誠実に「信頼」と向き合っていきたい。

よく学び、情操豊かで活力のある五小っ子「かしこく」「やさしく」「たくましく」

「前向きに精一杯」

都城市立西小学校 下野 雅代

昨年3月まで、自分の学年や学級の子どもたちのために一生懸命取り組んできた。それが、4月から教頭となり、まずは先生方のために役立てるようになりたいに変わった。特に、初任者の先生3名が1年間乗り切れるように支えたいと心に決めていた。様々な事案に関わる中で、直接自分が子どもを指導するのではなく、学級担任や各主任がいかにか指導できるようにしていくのかという人材育成の大切さに気付けたこと、実感できたことが前半の大きな学びであった。

10月からは特別支援学級の担任を兼務している。授業中に寝転がったり、脱走したり6人6様の子どもたちとの生活は面白いが大変さもある。しかし、本校は二人教頭体制のため、自分の担当を軽減してもらい配慮をしてもらい助けられている。その分、まだまだ知らない業務はあるが、昨年学級担任として子どもたちに話していた「置かれた場所で咲きなさい」の言葉を自分自身に言い聞かせ、“どうせやるなら楽しんで”の精神で、これからも何でも前向きに精一杯取り組んでいきたい。

桜の名所母智丘に隣接する都城西小 素直で明るく元気いっぱいの子どもたちです！

「熱い想いで」

都城市立縄瀬小学校 渡瀬 善和

本校は、全校児童40名（PTA世帯数28）2つの複式学級を有する小規模校である。当然のようにPTA奉仕作業や運動会準備は、子どもも保護者も全員で取り組む。子ども、保護者だけでなく、地域の方が地区ごとに輪番で、あいさつ運動やPTA奉仕作業に参加し、人的に支援をしてくださっている。また、PTA準会員となっており経済的にも支援をしてくださっている。先日は、創立150周年記念式典を迎えるにあたり、住所を手がかりに地域の方へ案内文書を配付しようとしたら、地域の方が「〇〇さんの家は、知っているから届けましょうか。」と幾つもの文書を届けてくださった。また「年金暮らしで少しですが、学校に役立ててください。」と寄附金を「手作りですが、心を込めて作りました。」と色紙でできた花一輪を地域の方からいただいた。教諭時代には、見えなかった地域の方の学校に対する熱い想い。私も熱い想いで応えていきたい。

令和5年度創立150周年 地域と共にある縄瀬小学校

「中平先生と呼ばれない」

三股町立勝岡小学校 中平 光彦

この4月から教頭職としての勤務がはじまったが、大きな変化としては、誰からも「中平先生」と呼ばれなくなったことだ。「教頭先生」「教頭」と、随分と違和感のある呼ばれ方ではあったが、これまでの役割と大きく違うのだと言うことを実感し、職の重さを自覚した。

違いといえば、これまで中学校での勤務であったが、はじめて小学校に勤務することも私にとっては新しい挑戦が多くあった。しかし、校長先生をはじめとする先生方や保護者、地域の方々そして子ども達に助けられ、支えられていることを深く感じる機会が多くあった。自分もこれまで同様に謙虚な考え方を基本に、率先垂範を心がけながら、子ども達一人一人のよりより成長につながるよう職員や保護者、地域の方々の助けや支えになれるような業務を行っていきたく、強く思う。

奴踊り(餅原地区)と俵踊り(蓼池地区)の伝統芸能が受けつがれ、子育てに熱心な保護者や小学校を愛する地域の方々に支えられ、校内にみどりが丘、学校前に蓮畑が広がる緑豊かな学校です。

「想像力と責任」

都城市立祝吉中学校 飯 干 智 晃

2024年のスタートは能登半島地震、航空事故で日本中を震撼させた。本県でも起こりうるリスクに、当事者意識で物事を考える日々が続いている。全校生徒560名の大規模校である本校の業務は、日々、煩雑だが、被害を受けられた方々のことを考えると普段通りの日常に感謝しかない。「もし…だったら」、考えるとキリがないが、だからこそ常にアンテナを高くして「最悪を想定しながら最良を考え最善を尽くす」、先を見通した準備（想像力）と行動（責任）を心掛けようと改めて決意した。

箱根駅伝における原晋監督（青山学院）の『負けてたまるか大作戦』は、人間の強さ、仲間との絆（協力→強力）を感じた。結果も大切だが、それ以上に準備やプロセスを積んでいるからこそその発言だと考える。私自身もこの言葉に背中を押されながら多少迷いがあった昨年の日々を教訓に、校長の経営方針『凡事徹底』『鍛錬』を肝に銘じて、さらに精進していく所存である。

☆ 『凡事徹底』当たり前のことを当たり前に行う ★ 『鍛錬』心・体・頭を鍛える

「サーバントリーダーを目指して」

都城市立夏尾中学校 西 村 清 美

新任教頭として赴任してからあと数ヶ月で1年が経とうとしている。4月からの毎日は、緊張と重責を感じる気の抜けない日々であった。4月当初、次から次にやってくる文書や様々な対応に途方に暮れながら、立ち止まる暇もなく、果たして自分は教頭職が務まるのか、これでいいのか自問しながら職務をこなしていた。そんな私に校長先生は「教頭職に正解はありません。今、先生は十分やれていますよ。」という言葉をかけてくださった。もちろん十分やれているはずはないが、私の気持ちを察してかけて頂いたこの言葉にどんなに救われたかわからない。私の目指すリーダーは、先生方の意見に耳を傾け、寄り添い、助けることができるサーバントリーダー。自分の職務をこなすことで精一杯で校長先生はじめ先生方、保護者、地域の方々・・・多くの方々に支えられてきた1年。2年目からは私の目指すリーダーに近づけるようさらに精進し、教頭職を楽しんでいきたいと思う。支えてくださったすべての方に感謝である。

夏尾中学校は、都城市どこからでも通うことができる小規模特認校
恵まれた自然環境 一人一人の生徒にきめ細かな指導

「何でも！『三股魂』」

三股町立三股中学校 日 高 由 文

異動内示の日に「三股中学校」と聞いたとき、大規模校で自分はやっていけるかなという思いが頭をよぎった。県内一のマンモス中学校である本校は1年10学級、2年9学級、3年8学級、特別支援学級5学級の計32学級、全校生徒940人である。全校集会で体育館に全員集めるような機会では15分を見る必要があるが、その大集団が無言で移動する姿はある意味圧巻である。当初は「大規模校ならでは」を心配していたが、授業にも部活にも行事にも真剣に取り組む生徒の姿に感動を覚えた。

先生方の真剣な指導に生徒も答え、子弟ともに「三股魂」の実現に向けて努力している。今後さらなる高見を目指す学校でもあると考える。この学校で自分の役割を十分に発揮し、1つでも役に立てればと思ひ、日々過ごしております。

三股中は 明朗・誠実・賢明 そして「三股魂」でできております！

「あの日のままに」

小林市立栗須小学校 金丸 繕久

未知の業務にただただ必死に向き合い続けたこの9か月。優秀な職場の仲間を支えられながらここまで辿り着いた。話に聞いていた教頭の業務は多岐に渡り、確かに忙しい。しかし、新鮮でやり甲斐のある仕事でもと感じ、楽しむ気持ちで仕事に臨んでいる。一方で、子どもたちとの直接的な関わりがぐっと減ったことに一抹の寂しさも感じていた。本校内には、樹齢150年を数えるせんだんの木がどっしりと根を張り、大きく枝葉を広げている。令和7年に創立150周年を迎える本校を、創立当初から変わらず見守ってきたことになる。どんな時にも変わらずそこにいて、この学校や地域の人々を優しく包み込んできたこの巨樹に思いを馳せたとき、教頭という立場は変わっても、目指すべきものは初任者であったあの日と何も変わらないのではないかとはっと気付かされた。あの日のままに、これからも子どもたちの今と未来に向き合い、教頭職を全うしていきたい。

命と人権を第一に、共同助力の精神で、誇り高き三ヶ野山魂を受け継ぐ栗須っ子

「高めよう！焼きそば作りのプロ意識」

高原町立後川内小学校 今西 隼人

3年間の高原小学校主幹教諭を経て、本校に教頭として勤務させていただいております。町内の緑の多い小規模の学校です。教務主任とは全く違う業務に戸惑いました。何より「教頭先生」と呼ばれることが当初とても面はゆく感じていました。コロナも落ち着いてきたため、3年間行わなかった地域の行事が復活し、過去、教頭の役割も大きいと聞いていました。手探りの状態ではありましたが、中学校の水間教頭と情報交換、連携をしながらここまで来ています。後川内は地域主催の夏祭りがあります。その実行委員として早い段階からの準備、当日は出店の焼きそばを担当しました。凄く暑かったこと、手慣れず、客の行列を作ってしまったことは苦くもよい思い出です。終わるころには焼きそばづくりのセミプロ！？中学校教頭と次年度の目標設定をしました。2年後は町内の小中学校はすべて統合されます。残った時間を大切にしていきたいと考えています。

後川内小中、1日1日が思い出作り 自信をつけて新たな世界へ！

「改めて実感『報告・連絡・相談が一番大切』」

小林市立紙屋中学校 下 園 和 男

恥ずかしながら紙屋中学校がどこにあるのかも知らない状態で、新任として4月に赴任しました。そこは、宮崎と小林を結ぶ県道沿いにありながら、校舎の3方向を木々の生い茂った森林に囲まれたとても自然豊かな学校でした。初出勤の朝、誰よりも先に私を迎えてくれたのは、グラウンドを横断するように並んで走っていた2匹のアナグマでした。自然が大好きな私はワクワクしていました。教務主任を通算13年務めてきたので、ある程度は、その仕事内容も理解しているつもりでした。しかし、年度当初の文書処理や作業が目まぐるしく過ぎていくなかで、校長先生への「報告・連絡」を忘れてしまったり、不在時に「相談」もせず勝手に判断してしまったりしたこともあり、ご迷惑をお掛けしたことがありました。そこで、当たり前ですが、「報告・連絡・相談」が一番大切であることを改めて実感しました。今後ご迷惑をお掛けしないよう頑張りたいと思います。

生徒を大切にし、誰ひとり取り残さない教育の推進～ No one will be left behind ～

「カルチャーショックの中で」

高原町立後川内中学校 水間周作

本初の小規模校勤務と教頭住宅入居。地域の一員としての清掃活動やゲートボール大会参加。お盆のまつり参画、焼きそば販売。蜂や沢蟹、見たこともない虫の駆除。迷い猫や穴熊の動向を気にしながらの通常業務。事務職員が小学校と兼務のため、文書や郵便物の受付も後川内中では教頭の仕事である。そして高原町一貫教育校準備、息つく暇もなく教頭職の初年度を終えようとしている。

カルチャーショックの連続で、緊張と戸惑いの日々であった。異動や昇任は最大の研修というが、思いがけない役割がまわってくることで新しい自分の発見、気づきがある。立場を楽しむゆとりはない。ただ、目の前の役割を必死でこなしていく中での気づきは実感できる。気づきの一つが仲間との出会い。隣接する小学校の教頭とのつながりや、地域の多くの人との出会いが今の自分の支えである。これからも続く濃密な時間を、気づきを大切に精進していこうと思う。

生徒会スローガン「笑顔・協力 12人の絆と地域への感謝」

「しまんだの宝との出会い」

延岡市立島野浦学園 大久保 朋広

初めての島野浦、初めての単身赴任、そして初めての教頭職。期待と不安が入り交じってのスタートでしたが、島のおいしい魚をいただいたり、スノーケリングでサンゴを観たり、神社大祭で神輿を担がせてもらったりと、まさしくたくさんの「しまんだの宝」に出会うことができました。

教頭としての自分を振り返ってみますと、一番に心がけたのが「風通しのよい職員室」でした。先生方からの相談には傾聴の姿勢で対応し、時には冗談を言い合いながら、明るく和やかな職員室の雰囲気作りに努めてきました。

島野浦学園は、義務教育学校2年目を終えようとしています。島全体で、子ども達を「しまんだの宝」として温かく、大切に見守っていただいています。それだけ学校に対する期待も大きく、その期待に応えられるよう、これからも職員一丸となって邁進していきたいと思っています。

校訓「誇り」「貢献」「自立」 ～自他の幸福を築きながら～

「新任副校長の業務とは・・・」

日向市立大王谷学園初等部 谷 正 勝

私自身、「教頭会会報」に原稿を書くのは2回目となります。1回目は新任教頭の時ですが、2回目は「新任副校長」として原稿を書く次第となりました。この場をお借りして、本学園の副校長としての業務を紹介します。

日向市は小中一貫教育を推進しており、本学園は「併設型小中一貫校」として、中等部校舎と初等部校舎が「学びの架け橋」という通路で結ばれています。職員室や事務室、PTA組織もそれぞれにあります。よって、一般的に言われる校長先生の話や、初等部では副校長がしたり、初等部の校内起案文書を決裁したりしています。ただし、教職員調書や異動調書、教職員評価等の「人事に関する事」については校長先生が最終権限者となります。その他、日向市教育委員会では、市の校長会に副校長も参加することになっています。

今日が楽しく、明日が待たれる大王谷学園

「牧水先生に学ぶ」

日向市立東郷学園（中学部） 椎 葉 貴 大

一日の始まりは、牧水先生の短歌から始まる。日向市東郷町は偉大な歌人若山牧水先生の生誕の地です。子ども達は幼い頃から牧水先生の短歌に親しみ、地域の方々や豊かな自然に囲まれながらのびのびと育っています。4月に小中一貫校である本校へ赴任して、まず始めに子ども達と出会ったのは、牧水先生の短歌を大きな声で朗詠して教室に向かう子ども達の姿でした。

「若竹の 伸びゆくごとく 子ども等よ 眞直ぐにのぼせ 身をたましひを」～互いに切磋琢磨してまっすぐに伸びてほしい、身体だけでなく勉強もたくさんして人として成長してほしい、との願いを込めて詠まれた歌であり、本校の教育目標でもあります。新米教頭として日々勉強。素直な子ども達から癒しとパワーをもらい、しっかりと切磋琢磨してこれからも頑張りたい。

「郷育」つながり合う社会性・役に立つ自己有用感 ～ 小中一貫教育を貫く軸 ～

「努力は人を裏切らない。人間、頑張ったほど」

美郷町立南郷小学校 山 口 麻 衣 子

清流と豊かな山林に包まれた南郷。梅・栗・米・ジビエなど食の宝庫であり、百済王伝説からなる1月の師走祭りは圧巻である。何よりも南郷の人々の温かさ。地区懇談会や地域の祭りで人々と触れ合い、地域で子どもを育てる力強さと郷土への熱い思いを知った。「地域があって、家庭があって、学校がある」。本校は、地域・家庭・学校が一体となって「生涯にわたって自分の力で学び、豊かに生活できる南郷っ子の育成」に当たっており、どの子どもも笑顔いっぱい夢に向かって頑張っている。素晴らしい地域・保護者・教職員、そして子どもたちに恵まれ、日々幸せを噛みしめると共に、南郷のために力を尽くし、貢献していきたいと思う。

6月に最愛の母が急逝した。「努力は人を裏切らない。人間、頑張ったほど」。母の口癖だ。私が教頭になったのを一番喜んでくれた母。謙虚に誠実に、一步一步前進していきたい。

誇りと自立と飛躍 美郷南学園 ファイト！一発！！

「楽しむを・・・」

美郷町立西郷義務教育学校 河 野 清 香

本校が位置する美郷町の魅力はなんと言っても豊かな自然。悠々としたダム湖、そしてその神秘的な深緑の水面とダム湖を囲む山々の壮大さ。この圧巻の景色に身をゆだねることがとても心地よい。

本校は、令和3年4月に田代小学校と西郷中学校が統合され、西郷幼稚園を隣接した県内初の義務教育学校、西郷義務教育学校として設立された。4歳から15歳までの11年間の学びの成長過程を見守ることができるのは、子どもたち、保護者、そして私たち教員にとって、とても贅沢なことであり、義務教育学校ならではの強みである。

さて、教頭として赴任し9ヶ月が過ぎた今もなお、日々自問自答を繰り返している。「教頭を楽しんでいるか？」と。私にとって「楽しむ」は仕事への原動力に直結し、発展的思考を促すもの。そしてそれは、周りの方々への「感謝」の気持ちの上に成り立っているもの。これからも「楽しむ」を追求していきたい。

大人が生き方を語れる学校 子どもが夢を語れる学校

「新たな視野で教育現場を実感」

五ヶ瀬町立三ヶ所小学校 坂本 香奈子

合格発表日に最後の学年集会を終えて異動発表。五ヶ瀬町・小学校・教頭・・・一つだけ聞き慣れた単語は五ヶ瀬町。10年ほど前に勤務した町。なつかしさと共に不安がどっとあふれた。4月はPTA総会で役員との顔合わせがあり、「何でも聞いて下さいね。」というPTA会長の一言にほっとした。地域の方は積極的に学校へ足を運んでくださる。野菜の苗をいただき、畑作りを初体験。草刈り機も習いつなぎと麦わら帽子が活躍する。理科の授業で観察や実験指導も初体験。児童の好奇心にこちらが元気をもらい楽しくなる。教頭としてというより、新しいことに次々と驚く初心者そのもの。

地域が身近にあり、職場では校長先生をはじめ何でも聞いて相談できる環境に感謝している。知らないことばかりだと実感するが、「気づき」だとポジティブに考えている。と同時に今までに感じたことのない、支えられているという実感を大事にし、常に「協力・気づき・感謝」を忘れずに「地域・子ども・学校」のために活動できる管理職を目指していきたいと思う。

児童が、毎朝笑顔で登校し、笑顔で下校する三ヶ所小

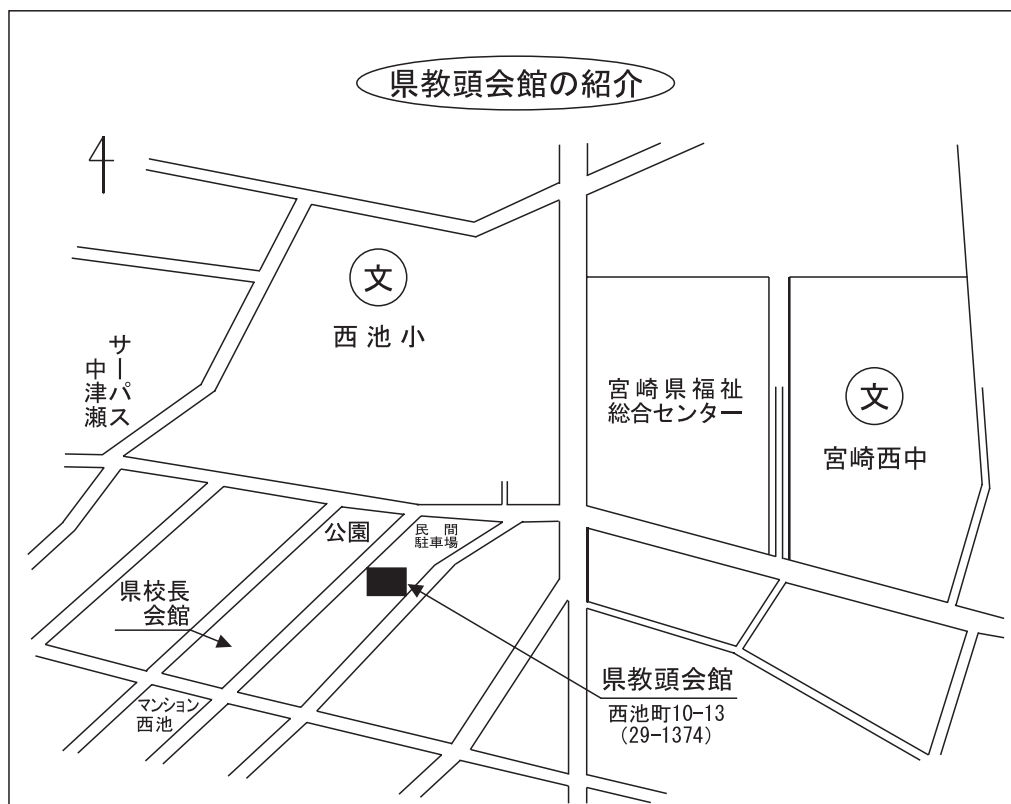
「地域があって 子どもがいて 学校がある」

五ヶ瀬町立上組小学校 黒木 麻矢

教頭になり1年が過ぎようとしている。振り返ればこの1年、様々な出会いがあった。学ぶことに目を輝かせ、毎朝元気に登校する子ども達。成長著しい子ども達に負けられないと私自身も獅子奮迅頑張ってきた。頑張りすぎてアキレス腱を切ってしまったのも、今では良い思い出だ。PTA行事や懇親会など、機会を捉えては保護者の方々、地域の方々と熱く語り合い、杯を酌み交わした。上組小学校のこれからについて語り合った時間は、何ものにも代え難い。地域、家庭、学校の三者が同じ目標に向かい、手を取り支え合いながら学校教育を実践する大切さを学ぶことができた。本校は「地域があって 子どもがいて 学校がある」その最たる学校だ。

また、その要として新米教頭である私を育てて下さった伊藤校長を始め、チーム上組として学校を支え頑張ってくれた本校職員10名にも感謝したい。よりよい学校づくりのため、今後も毎日笑顔と前向きな姿勢で更なる精進を重ねていく。

五ヶ瀬で生まれ、育ち、生き、五ヶ瀬を創造する人づくり



編集後記

新年がスタートし、正月の箱根駅伝で青山学院大学が原監督の掲げた「負けてたまるか！大作戦」で見事7度目の優勝を達成したことがつい先日だったような気がします。日々の業務に追われ、気が付くと早2月となり、各先生方におかれましては年度末が近づき慌ただしい日々を過ごされているのではないのでしょうか。

今回で146号となったこの「教頭会報」は、教頭先生方にとって情報共有や意見交換の貴重な場であり、互いに励まし合い、共に成長していくための大切なツールでもあると感じています。近年、本県教育においては、働き方改革と人材確保、ICT教育の充実、いじめ・不登校対策の強化、格差解消と個別最適化の推進、特別支援教育の推進などといった多くの課題が山積していますが、これらの課題解決に向け、教頭職として同じ思いで日々職務に当たっていている同志がいることを実感し、前向きになれるパワーの源でもあります。今後も教頭会報を通して、情報発信や意見交換を積極的に行い、教頭先生方同士のネットワークをさらに強化し、宮崎県の教育をより良いものにしていくために、お互いに尽力していければと考えます。

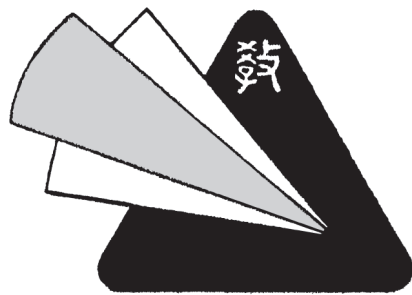
さて、前の文章は「生成 AI」で作成したものを少し加除修正したものです。先日、「生成 AI」についての研修会に参加した際、『これからの社会では「AI活用能力」が重要で、そのためにはとにかく「使う」しかない』と講師が述べられていました。恥ずかしながら今回、業務で初めて使ってみました。最初から文章を考えるより半分以下の時間でこの編集後記が完成したような気がします。最近では芥川賞受賞作品にも ChatGPTが使われている報道があり、時代の変化を受け入れる社会になっていると思いました。生成 AI は社会の当たり前になっています。学校における働き方改革推進の観点からも、教頭として、正しくうまく「生成 AI」を使っていこうと強く感じました。

最後になりますが、今度も各支会広報担当の教頭先生方の協力を得て、無事に県教頭会報を年間3回発行することができました。これも何かとご多用な中に執筆していただきました関係の先生方のお陰であり、心から感謝申し上げます。会員の皆様全員にとって有意義な年度末となりますことを祈念申し上げます。

一年間ありがとうございました。

令和6年2月

宮崎県公立小中学校教頭会 広報部



MVPA